

再評価審議資料【道路事業（県事業）】（道路建設課）

- 再評価対象箇所一覧表 . . . p1
- 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について . . . p3
- 再評価実施箇所（附図） . . . p5
- 説明資料（パワーポイント）
  - ③道路改築事業（社会資本整備総合交付金）
    - 「(国) 363号 柿野バイパス」 . . . p7～15



令和3年度 再評価対象箇所一覧表 2月7日審議箇所

[県土整備部 道路建設課]

番号	事業名	路線・地区 ・河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事業概要		全体事業費			実施済み額			進捗率		経過年数 (R4.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の 進捗状況	社会経済情勢等 の変化及び 地元の意向	環境との調和へ の配慮事項	事業費縮減	費用対効果 分析	対応方針 (案)	特記事項	
						全体事業量 (km)	実施済事業 量 (km)	事業費 (百万円)	用地補償費	工事費等	実施済み額 (百万円)	用地補償費	工事費等	(%)	用地補償費										工事費等
3	道路改築事業	(国)369号 栲野バイパス	土岐市	H7	R8	3.27	2.19	3,250	699	2,551	2,487	666	1,821	76.5%	95.3%	71.4%	26	・地域間の観光交流 や産業振興の推進 ・安全で快適な歩行 空間の確保 ・災害時に強いネット ワーク作り	-	韮野小学校・曹木 小学校の統合	環境に配慮した ルートへの選定	児童生徒工 の有効利用 による処分費 縮減	1.1 (1.2)	継続	前回 再評価 H28

費用対効果分析( )は前回再評価時の投資効果率



令和 3 年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名	道路改築事業	
	事業目的	地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。	
	採択基準	地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。	
	概要 (メニュー)	現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設	
○費用対効果の分析について *費用便益 B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 走行時間短縮便益</li> <li>・ 走行経費減少便益</li> <li>・ 交通事故減少便益</li> </ul>
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費 現在価値算出のための社会的割引率：4％ 基準年次：評価時点 検討年数：50年間	
費用便益比の基準	原則費用便益比 (B/C) 1.0 以上		



# 令和3年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	3	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (公共社会資本整備総合交付金) 一般国道363号 柿野バイパス		
事業実施箇所	と き し つ り さ と ち ょ う か き の 土岐市鶴里町柿野 ～と き し つ り さ と ち ょ う ほ そ の 土岐市鶴里町細野		事業主体	岐阜県	
採択年度	平成7年度		完了予定年度	令和8年度	
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年が経過した時点での継続中の事業				
事業目的	<p>一般国道363号は、愛知県名古屋市を起点とし、岐阜県中津川市へ至る延長約74km（県内延長57km）で、県土1700km骨格幹線ネットワーク構想にも位置づけられている重要な幹線道路である。当該事業は、このうち土岐市鶴里町柿野～土岐市鶴里町細野の3,270m区間をバイパス整備するものであり、地域間の観光交流や産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保、安全で快適な歩行空間の確保を目的としている。</p>				
事業概要	<p>事業延長：3,270m 車道幅員：3.00m×2車線 歩道幅員：2.50m（片側）</p>				
概要図	<p>The map shows the project area along National Route 363, from the start at Toki City Tsurumicho Kakinohara to the end at Toki City Tsurumicho Hosonohara. The bypass route is highlighted in purple, with a total length of 3,270m. The project is divided into three zones: Zone 1 (L=730m, H15 fiscal year completion), Zone 2 (L=1,460m, H21 fiscal year completion), and Zone 3 (L=1,080m, not yet completed). The map also shows existing roads like the main Toki Sokujo Line and various landmarks like the Toki City Office and Tsurumicho Branch Office. A legend indicates that red lines represent unbuilt sections, black lines represent built sections, blue lines represent expressways, purple lines represent national roads, green lines represent main prefectural roads, and yellow lines represent prefectural roads.</p>				





# 事業再評価 道路改築事業

## 一般国道363号 かきの 柿野バイパス

岐阜県 県土整備部 道路建設課  
令和4年2月7日



1

### 位置図



## 位置図②

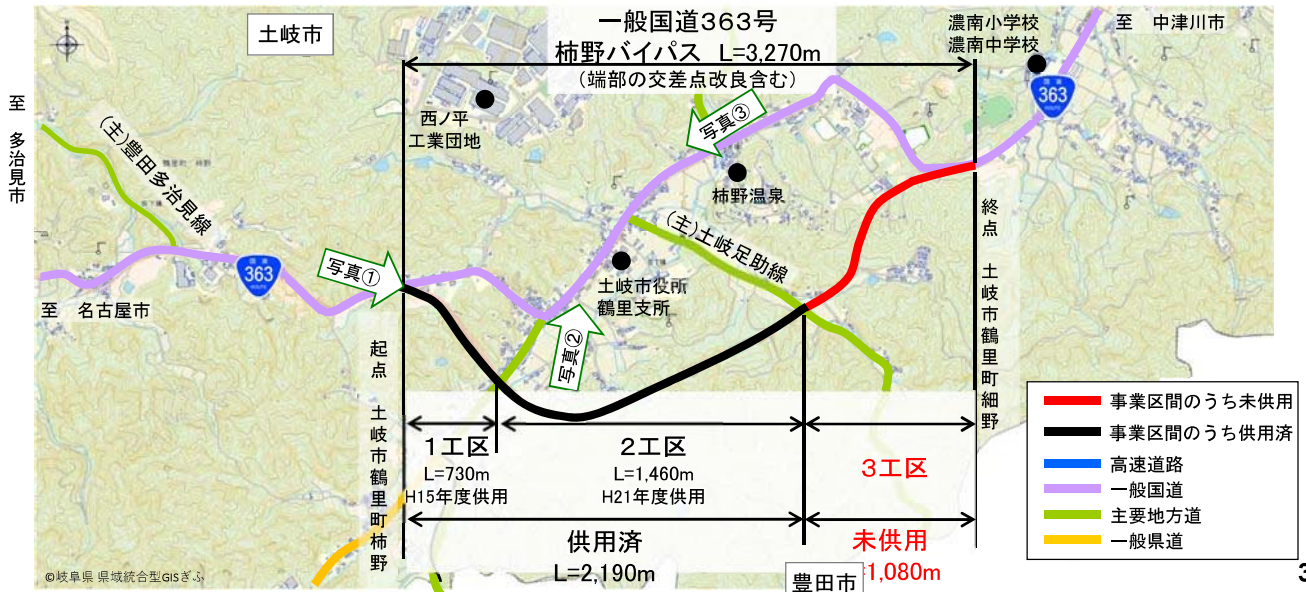
写真①(起点部付近の状況)



写真②(現道の状況)



写真③(現道の状況)



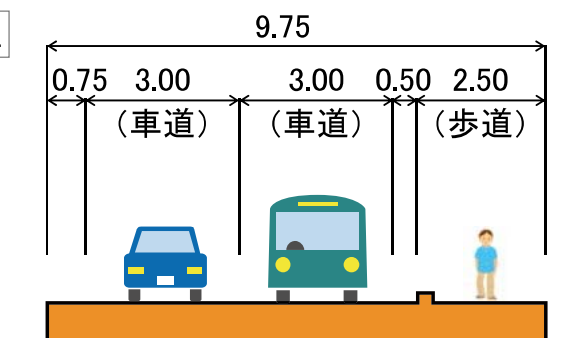
3

## 事業概要

- ◆ 起 終 点 : ときしつるさとちようかきの ときしつるさとちようほその  
土岐市鶴里町柿野～土岐市鶴里町細野
- ◆ 全体延長 : 3, 2 7 0 m
- ◆ 総事業費 : 約 3 3 億円 ( 3 工区 : 約 1 1 億円)
- ◆ 事業着手 : 平成 7 年度
- ◆ 完成予定 : 令和 8 年度
- ◆ 幅 員 : 車道 3.00m × 2 車線  
: 歩道 2.50m (片側)

標準横断図

3 工区



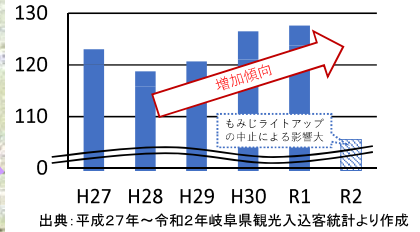
# 事業目的①

## 活力：地域間の観光交流や産業振興の推進

- 土岐市～恵那市にかけて複数の観光・レジャー施設が立地しており、令和2年の観光入込客数は約106万人。近年は観光客数が増加傾向であり、柿野バイパスの整備により、多治見市や名古屋市方面からのアクセスが向上し、**県内外の観光客のさらなる増加が期待**
- 土岐市の特産である陶磁器の製造販売会社や工場が国道363号沿線に立地しているため、東海環状自動車道せと品野ICへのアクセスが向上することで、地域の産業振興が期待される。



■主な観光地点の入込客数の推移



主な観光地点の入込客数	直近(R2)
曾木公園もみじライトアップ(11月)	コロナにより中止
バーデンパークSOGI	154万人
道の駅おばあちゃん市・山岡	512万人
ゴルフ場(7箇所)	389万人
合計	1056万人

出典：令和2年岐阜県観光入込客統計調査  
 ※妻木陶磁器工業協同組合、恵那陶磁器工業協同組合、岐阜県窯業原料協同組合所属企業、WEB地図より(鶴里・曾木町・陶町)

# 事業目的②

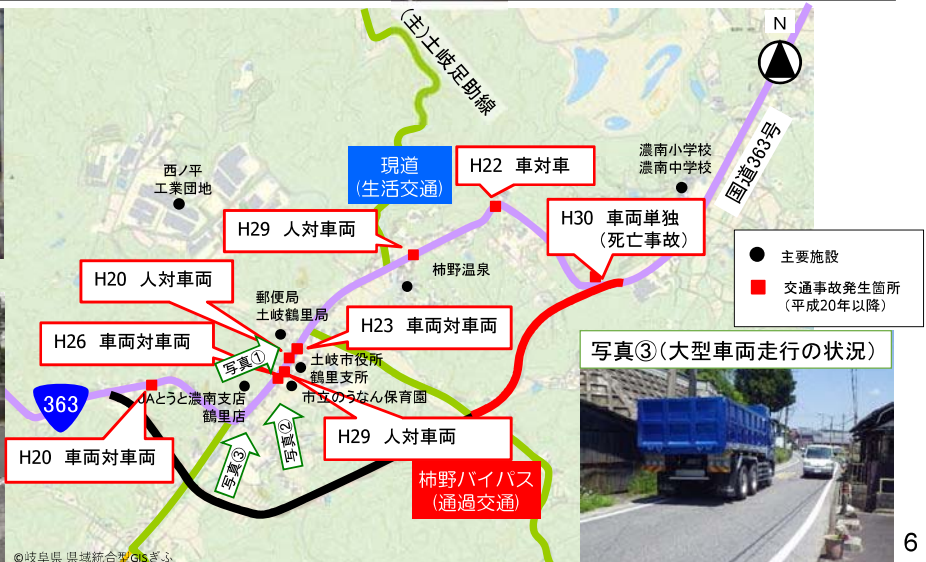
## 安全・安心：安全で快適な歩行空間の確保

- 幅員狭小区間に通過交通と生活交通が混在
- 現道区間において、過去13年(H20～R2)に8件交通事故(人身)が発生
- 柿野バイパスの整備により、通過交通が転換し、現道における歩行者・自転車の安全性が向上

写真①(歩行者の状況)



写真②(通学の状況)



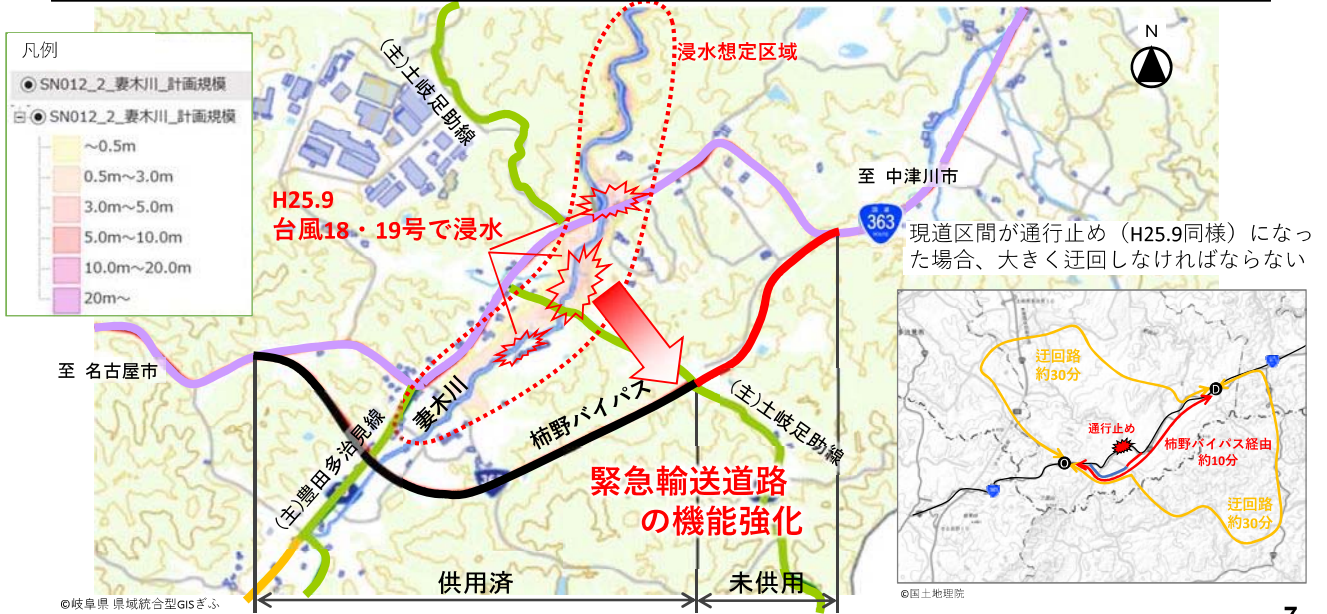
写真③(大型車両走行の状況)



# 事業目的 ③

## 安全・安心：災害に強いネットワークづくり

■第2次緊急輸送道路である国道363号の現道区間の一部は浸水想定区域に指定されており、柿野バイパス整備により緊急輸送道路の機能強化が期待される  
(平成25年9月の台風18・19号で現道の一部区間が通行止めとなった)



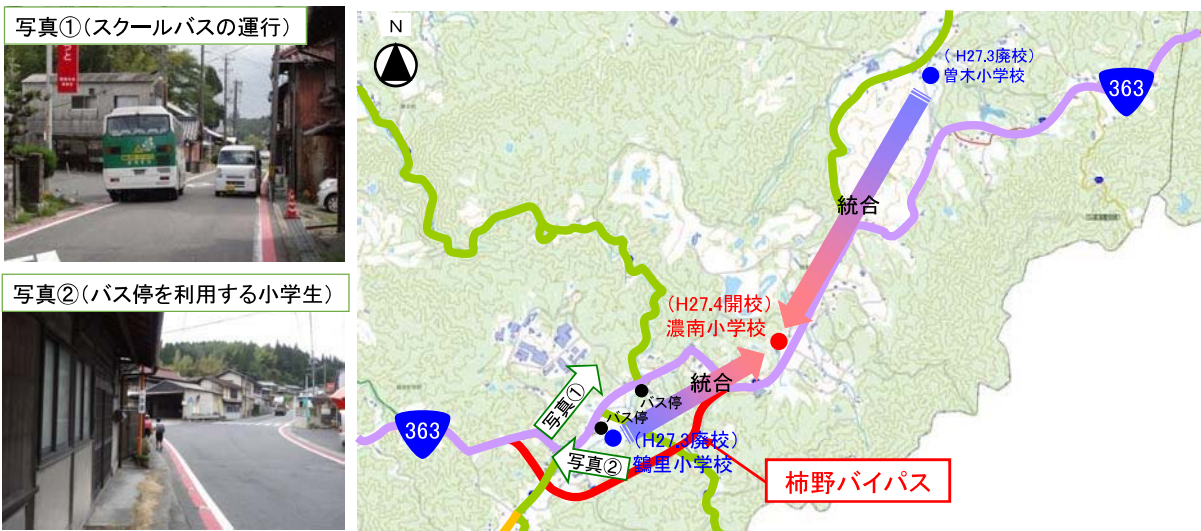
7

## 事業を巡る社会経済情勢等の変化

### ◆鶴里小学校・曾木小学校の統合

■鶴里小学校及び曾木小学校が平成27年3月に廃校、両校が統合され同年4月に濃南小学校が開校

■スクールバスのバス停へ向かう小学生が現道の狭隘区間を利用



8

# 進捗状況

令和3年度末事業費ベース

全体進捗率 77%

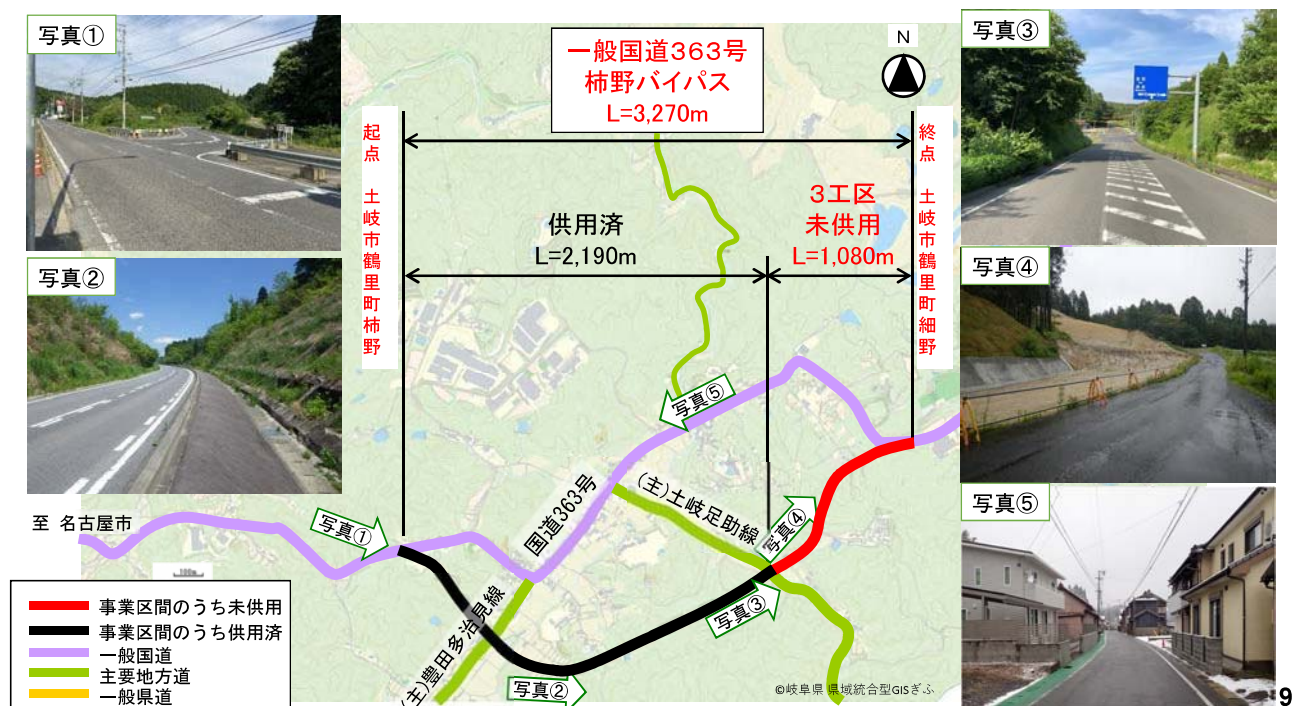
用地補償進捗率 95%

工事進捗率 71%

3工区進捗率 36%

3工区用地補償進捗率 73%

3工区工事進捗率 32%



## コスト縮減の取り組み

- 発生土の流用等によるコスト縮減は計画段階から取入れた上で、最適な計画で工事を実施していく。
- 今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく。

# 自然環境への配慮

## 環境に配慮したルートを選定

■事前の環境調査の結果に基づき、土岐市の天然記念物である湿地や絶滅危惧種の生息地を避けたルートを選定



シデコブシ  
環境省準絶滅危惧  
岐阜県絶滅危惧Ⅱ類  
写真出典：  
岐阜県レッドデータブック  
(植物編)(改正版)



サクラバハノキ  
環境省準絶滅危惧  
岐阜県準絶滅危惧  
写真出典：  
岐阜県レッドデータブック  
(植物編)(改正版)



ギフチョウ  
環境省絶滅危惧Ⅱ類  
岐阜県準絶滅危惧  
写真出典：  
土岐市ホームページ

11

## 費用対効果分析

### 事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 90%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 10%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

### 投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.1 (\text{全体})$$

前回再評価時  
(H28年度)  
1.2 (全体)

※費用便益分析マニュアル(国土交通省H30.2)に基づき算出

## 今後の方針

○一般国道363号柿野バイパスは、地域間の連携を促進し、観光振興・産業振興を推進するとともに、安全で円滑な交通の確保に大きく寄与する。

○地元住民及び関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



**=事業継続=**





令和3年度 第5回  
岐阜県事業評価監視委員会  
費用対効果分析資料

■事業名

【道路改築事業】 「一般国道363号 柿野バイパス」

■事業内容

延長L=3.2km、幅員3.00m×2車線

■費用対効果分析結果

区分		前回	今回	備考
		(基準年：H28)	(基準年：R3)	
事業期間		H7～R6	H7～R8	
費用 (億円)	事業費	39.8	49.4	
	維持管理費	0.7	0.7	
	合計 (C)	40.5	50.1	
効果 (億円)	走行時間短縮便益	43.0	50.7	
	走行経費減少便益	6.1	5.4	
	交通事故減少便益	0.7	0.3	
	合計 (B)	49.8	56.4	
費用対効果分析結果 (B/C)		1.2	1.1	

※金額は、社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したもの。

■費用対効果分析の分析方法

・費用便益分析マニュアル／国土交通省 道路局 都市局/H30.2

■費用対効果分析結果の要因変化

【費用】

- ・費用を現在価値化する際の基準年を平成28年から令和3年に変更したことによる影響
- ・事業期間が延長されたことによる影響（完成年度：R6→R8）

【C=+9.6億円】

【便益】

- ・費用便益分析マニュアルの改訂（H30年2月）による、時間価値原単位、走行経費原単位、交通事故損失額算定式の変更に伴う影響
- ・将来OD表の変更（H30年2月）による、走行時間短縮便益の増加

【B=+6.6億円】